月　日 名前　　／100点

【小4】国語 文章問題　物語文 2

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

いなかのおばあちゃんから、はがきがとどいた。大きな字で「ゆうとへ　元気ですか。畑のトマトが赤くなりました。夏休みに食べに来てね。」と書いてある。字は少しふるえていた。

「おばあちゃん、手がいたいのに書いてくれたのよ。」

お母さんが言った。おばあちゃんは、この春から手の指がいたくて、はしを持つのも大変なのだそうだ。

ぼくは、電話でお礼を言えばいいと思っていた。電話ならすぐにすむ。でも、はがきの字を見ていると、それではいけないような気がしてきた。この短い文を書くのに、おばあちゃんはどれくらい時間がかかったのだろう。

ぼくはつくえに向かって、はがきを書きはじめた。「トマト、楽しみです。」と書いたところで、手が止まった。もっと書きたいことがあるはずなのに、うまく言葉にならない。ぼくは何回も書いては消し、消しては書いた。

やっと書き上げたはがきには、学校のこと、友だちのこと、それから「手、はやくよくなってね。」と書いた。いつもより、ていねいな字になっていた。

ポストにはがきを入れると、ことんと小さな音がした。おばあちゃんがこれを読むところを思いうかべると、ぼくの口もとは、なんだかゆるんでくるのだった。

（この問題のための書き下ろし）

問一　おばあちゃんのはがきの字は、どんな様子でしたか。本文から十字までで書きぬきましょう。

問二　「それではいけないような気がしてきた」とありますが、ぼくがそう思ったのはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　手がいたいのに時間をかけて書いてくれたはがきには、はがきで返したいと思ったから。

イ　電話をかけると、お金がかかるから。

ウ　お母さんに、はがきを書きなさいと言われたから。

問三　「何回も書いては消し、消しては書いた」とありますが、このときのぼくの気持ちを、四十字までで書きましょう。

問四　はがきを書き上げたとき、ぼくの字はどうなっていましたか。本文から十五字までで書きぬきましょう。